

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	地域生活支援給付事業	会計	一般会計	事業No.	114	施策順No.	34-018
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-1-3-51-3		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	福祉課		
施策	34 障害者福祉の推進			事業期間	開始	18	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	在宅での支援サービスを希望している障害児者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		65才以下の在宅の障害児者数(人)		1884	1890	1900	1910	
	意図	地域で暮らす障害者がある有する能力を生かし、地域の特性や利用者の状況にあったサービスを利用することにより自立した日常生活や社会生活を営む事ができるようにする						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	地域生活支援給付を受けて日常生活を送っている障害児者数/65才以下の在宅の障害児者数 (%)	11.9	14.7	11.7	12.3	11.8	12.7	B
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	引き続き、障害児者が自立した日常生活や社会生活を営むための各種支援サービスの給付を行った。また、移動支援事業の給付実績が増加傾向にあり、23年10月からは視覚障害者等に限り、新たに同行援護サービスの支給が始まる予定である。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	障害者の自立した日常生活や社会生活を営む為の独自の支援サービス 1 移動支援事業(屋外での移動が困難な障害者に外出の支援を行う) 2 訪問入浴事業(重度の障害者の自宅を訪問し浴槽を提供して行われるサービス) 3 地域活動支援センター事業(在宅の障害者が通所により創作的活動や生産活動を通して社会との交流を図るサービス) 4 日中一時支援事業(重度の障害者の日中活動の場を確保し家族の一時的な休息を目的とするサービス)		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	障害者の自立した日常生活や社会生活を営む為の独自の支援サービス (1)移動支援事業 (2)訪問入浴事業 (3)地域活動支援センター事業 (4)日中一時支援事業	(1)実受給者数 (2)実受給者数 (3)実受給者数 (4)実受給者数	(1) 130人 (2) 8人 (3) 80人 (4) 6人
23年度実施計画	障害者の自立した日常生活や社会生活を営む為の独自の支援サービス (1)移動支援事業 (2)訪問入浴事業 (3)地域活動支援センター事業 (4)日中一時支援事業	(1)実受給者数 (2)実受給者数 (3)実受給者数 (4)実受給者数	(1) 130人 (2) 8人 (3) 80人 (4) 6人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金		27,225	19,622	26,879	
	県支出金		13,613	9,811	13,439	
	起債					
	その他					
一般財源		41,989	53,359	54,088		
計(A)		82,827	82,792	94,406		
	正規職員所要時間		1,000			
	臨時職員等所要時間		450			
	人件費計(B)		4,060			
	トータルコスト A+B		86,852			

(国)地域生活支援事業補助金(1/2) 19,622千円  
(県)地域生活支援事業補助金(1/4) 9,811千円

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	安心して地域で日常生活が送られる	施策の成果指標又はムトス指標	安心して地域で日常生活が送れる割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	障害者が各々の障害の程度に応じた自立を目指し、自分らしく、いきいきとした生活ができるようになった。		
	後期に向けた課題	障害者自立支援法廃止に伴う制度改革により、同種の事業が施行されるかが不透明。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	障害者が地域で自立できるための支援を推進してきた。		
	後期に向けた課題	障害者自立支援法廃止に伴う制度改革により、同種の事業が施行されるかが不透明。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	特になし。		
	後期に向けた課題	特になし。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	利用者負担は原則1割負担(上限あり)が法律で定められている。		
	後期に向けた課題	障害者自立支援法廃止に伴う制度改革により、利用者負担の体系が不透明。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①②障害者自立支援法の制度を利用することにより、障害者が各々の障害の程度に応じた自立を目指し、自分らしく、いきいきとした生活ができるようになった。		
	後期に向けた課題	障害者自立支援法廃止に伴う制度改革により、利用者負担の体系が不透明。		
全体を通じて	4年間の振り返り	障害者自立支援法の制度を利用することにより、障害者が各々の障害の程度に応じた自立を目指し、自分らしく、いきいきとした生活ができるようになった		
	後期に向けた課題	障害者自立支援法廃止に伴う制度改革により、同種の事業が施行されるかが不透明。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------